

2025年11月6日

T.Kobayashi

ほんの少しだけ我孫子を歩いてみた

船橋から出る東武野田線を、近頃は東武アーバンパークラインと言うらしい。

どこがアーバンで、どこがパークなのか、私にはわからない。カタカナ化・横文字化する必然性も感じられないし、和訳して見ても、イメージが湧いてこない。

私が好きなのは「東武野田線」という響きと車窓の景色。そんな訳でここではそう書くことにした。

というような個人的な好みがある電車で、三連休のど真ん中の11月2日、柏へ。そして常磐線に乗り換えて我孫子へ。

我孫子行の目的は、生涯学習センターで開催する「第26回全日本バードカービングコンクール」の展示会の鑑賞。知人が毎年コンクールに参加しているので、鑑賞に赴いている。これまでは、上野公園の東京都美術館で開催していたが、今年是我孫子市の Japan Bird Festival というイベントに合わせて開催するとのことだった。

●我孫子はなぜ我孫子なのか？

歴史を遡っていくと、資料の中に「あびこ」という地名が記されている最古のものは、鎌倉時代の正和2年(1313年)とのことで、それ以上昔になると、この一帯は「下総の国相馬郡」と呼ばれていた。

古墳時代(3世紀から4世紀)には、大きな権力を持つ大王や豪族は、豊かな土地を直轄地として、そこに住む人から貢納物を納めさせた。この土地やそこに住む人のことを阿毘古・我孫公(あびこ)と言った。我孫子・安孫子などの地名や人名の起こりはここにあると言われているとのこと。

手賀沼の北側に東西に延びる海拔 20mほどの台地にある水神山(すいじんやま)古墳は全長69mの前方後円墳で、大和政権と近い関係にある人物の墓と考えられ、この地が大和と深い関係にある土地であることを示しているとのこと。(我孫子市のホームページより)

●我孫子の地形

手賀沼は海拔 0m、古代には利根川河口の入り江だったと言われている。

我孫子駅と手賀沼の間を東西に走る海拔 20mほどの台地は利根川と手賀川の上に挟まれており、東に進むと徐々に高度を落として、布佐で没する。つまり元は利根川河口の小さな半島だった。利根川の流域の地形を見ると一目瞭然であるが、暴れる大河利根川が溢水を繰り返して、頻繁に流路を変えた歴史が伺える。この小さな半島も、利根川の暴れが作ったものかもしれない。

我孫子駅は海拔 20m、全日本バードカービングコンクールの会場である我孫子市生涯学習センターは海拔 5mの手賀沼の岸边にある。駅から標高差 15m以上を下ってくることになる。下り坂の途中にある町の名は「白山」、手賀沼北岸を東に進めば「高野山(こうのやま)」。

白山信仰・高野山信仰を思い浮かべたが、いずれも外れだった。

高野山は、元は「鴻の山」だったか「荒の山」だったのか、由来は不明。前述のように水神山古墳があり、古墳時代には人が住んでいたが、縄文・弥生の時代の遺跡は存在しないことから、この地に人が住みついたのは古墳時代以降だとされている。

●八坂神社

我孫子駅から手賀沼を目指して真南へ歩き始めると、最初の交差点の角に建つ八坂神社がある。大きな鳥居は目立つが、鳥居の奥の社殿は鳥居に比べるとかなり見劣りするので、よそ者の目で見るとさほど風格を感じない神社に見える。

応永3年(1396年)創建、我孫子宿ができた時に、宿場の安寧を祈願して京都の八坂神社から勧請したと言われている。主祭神は素戔鳴尊で、神社の通称は「天王さま」。

毎年七月の例大祭では、大神輿の渡御を始めとして町をあげての盛り上がりになるとのこと。

●Japan Bird Festivalとは

毎年11月に手賀沼周辺で行われる「人と鳥との共存」をテーマにしたイベントで、発足は2001年。手賀沼の自然を守り、そこに飛来する鳥やとりまく環境を保護して次世代につないでいこうという考えから始まった。急激な都市化の進展によって汚れ始めた手賀沼を何とかしようと考えたのがきっかけだったと聞いたことがある。

今年は、そのいくつかのイベントのひとつとして、全日本バードカービングコンクールの展示会も加えられた。我孫子駅を南口に降りると、Japan Bird Festival(J.B.F.)と書いたフラグや飾り付けが並び町を挙げて取り組んでいる様子がよくわかる。

●我孫子から成田へ

帰路は成田線で成田に出て京成に乗り換えることにした。

成田線の車窓から見ると、手賀沼北岸の海拔 20mの台地の地形がよくわかる。

我孫子駅を出た電車が、住宅地と化した台地を東進しながら高度を下げていく。

東我孫子・湖北・新木までは海拔 20mをキープしているが、新木駅を過ぎると下降が始まり、布佐駅まで来るともう海拔5mを割ってしまう。

木下(きおろし)駅を過ぎると利根川南岸の水田地帯を走るようになり、長門川を渡って安食(あじき)駅に入る。

下総松崎(しもうさまんざき)駅を過ぎると再び海拔 20~30mの山に中に入る。

山がちな景色を眺めていると遠くに成田の町の広がりが見えてくる。

約 33Kmの鉄道の旅だが、車窓から見える景色の変化が面白い。

成田線は、佐倉・銚子間のことで、厳密に言うと我孫子・成田間は、「成田線我孫子支線」というらしい。単線区間で待ち合わせが多く、乗る電車によっては小一時間かかることもある。

でも、これが、成田線の魅力のひとつかもしれない。

以上

